

ミニレクチャー

災害時に活動する人材の育成を考える

2017年11月14日（火）

株式会社 富士通総研

行政経営グループ

チーフシニアコンサルタント 名取 直美

災害時に活動できる人材を育成するには？

災害の現場では、何が起きるかわからない。

⇒そこで活動するためには、

- ・自分がなすべきことを理解し、それを説明できることが必要
- ・自分で臨機応変、柔軟に考えられることが必要

そのため・・・

まずは

step.1 行動できる人づくり・・・心構え・マインドセット

その上で

step.2 行動するための技術・知識の獲得

step1.行動できる人づくり・・・心構え・マインドセット(京都府)

自分の問題となるように「考える」

みんなの問題として「考えて」「共有する」

⇒そこに行動がついてくる



step2. 行動するための技術・知識の獲得（岩手県）

活動するための環境調整（他職種・自治体・住民らとの連携）

与えられた課題に対し、どう行動するか？を考え、実際に動いてみる



◆育成にあたっては、その後の実施体制も考えて育成する

⇒リーダー層の育成

⇒圏域等での取り組み ……平時の取り組みへ

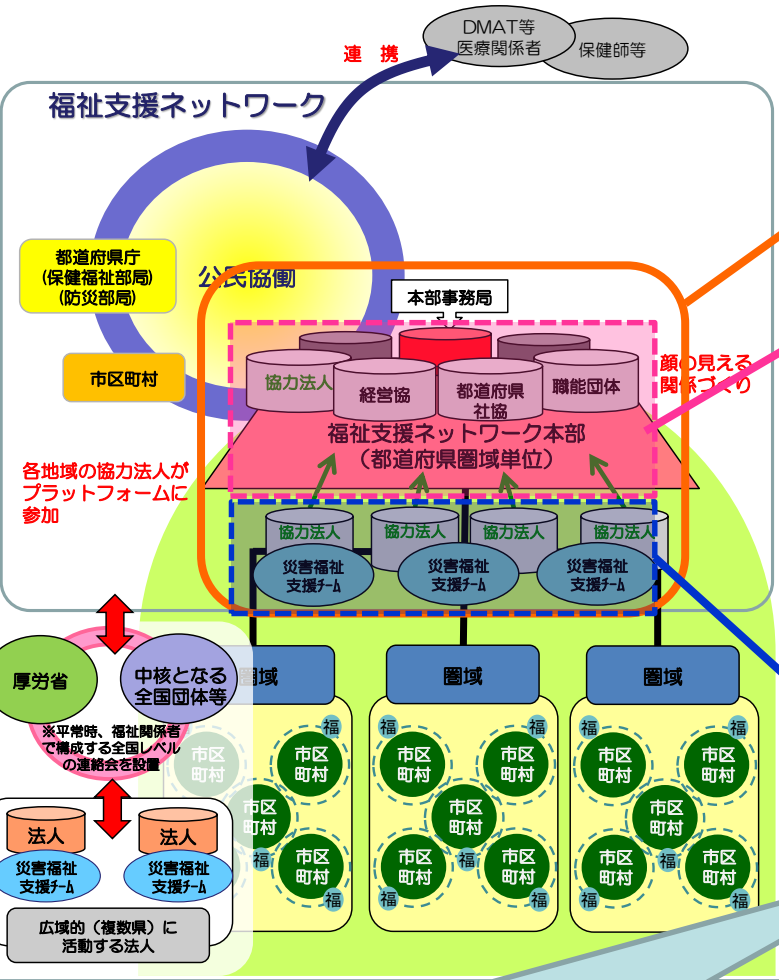
◆災害時に人材が活動できるための体制づくりも重要

⇒ここができていないと、いざと言う時に人も出せない・受け入れも困難

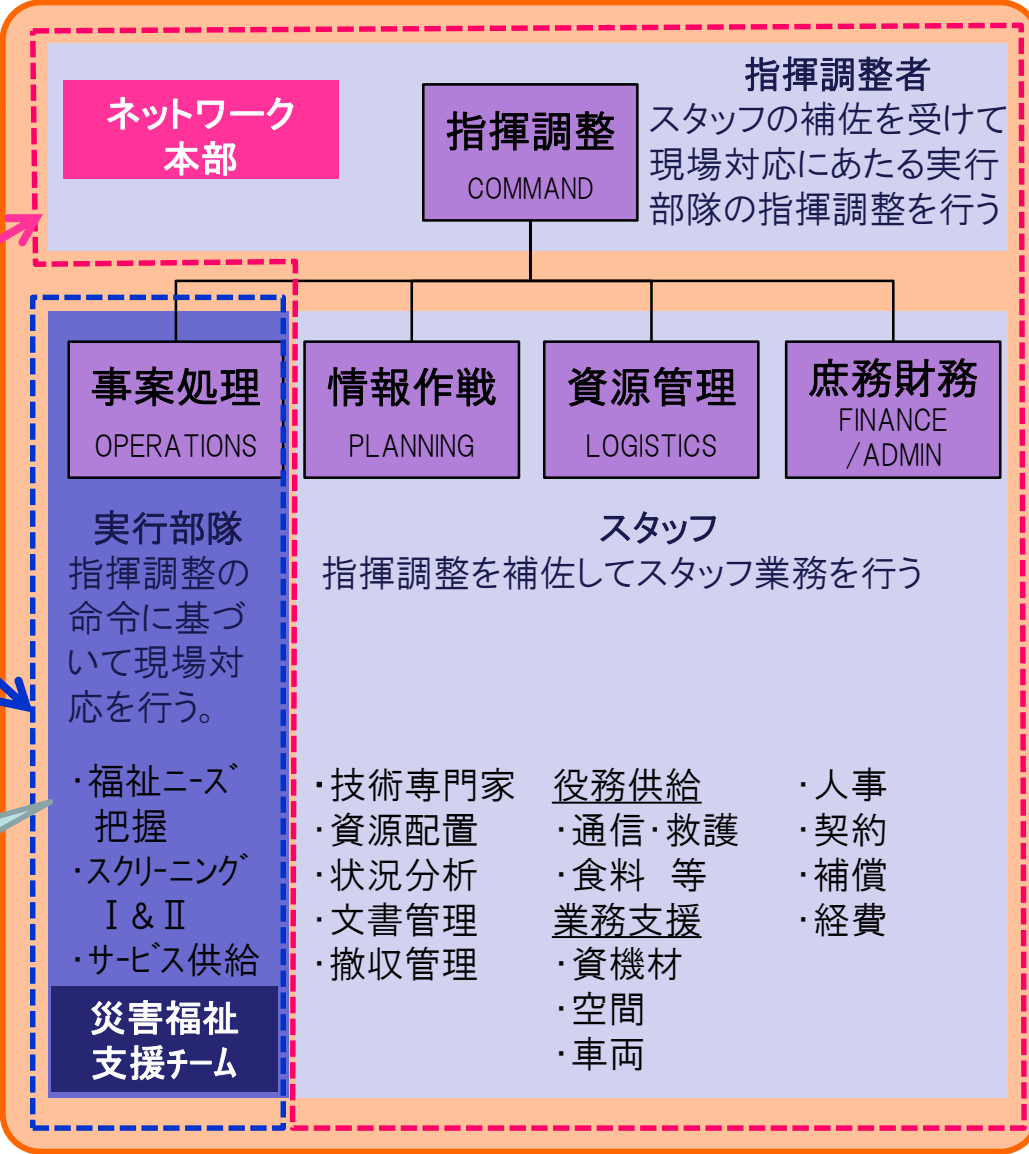
⇒平時の「事務局」が災害時の「本部」機能の全てを担うことは困難

それを補強していく方策等を、災害時の福祉支援体制づくりに係る
自治体・団体等と一緒に考えていくことが必要

ネットワークに必要な5つの機能の確保（再掲）



危機対応を5つの機能の集合体としてとらえる



実際の人員派遣も重要だが、本部機能の立ち上げや指揮調整が機能しなければ活動できない。よって、その構築と訓練は重要。

都道府県内の体制づくりでは、平時の「事務局」だけではなく、構成団体も参加した災害時の「本部」の体制強化策の検討は必須。